
学術情報システム委員会報告

—レポート作成の趣旨と今後の事業計画—

京都大学附属図書館

米澤 誠



1 問題意識

現在、学術情報流通に関するシステムやサービスデザインに関する検討は、多方面で行われているが、その成果は分散しており、全体的に見渡すことが困難な状況になっている。

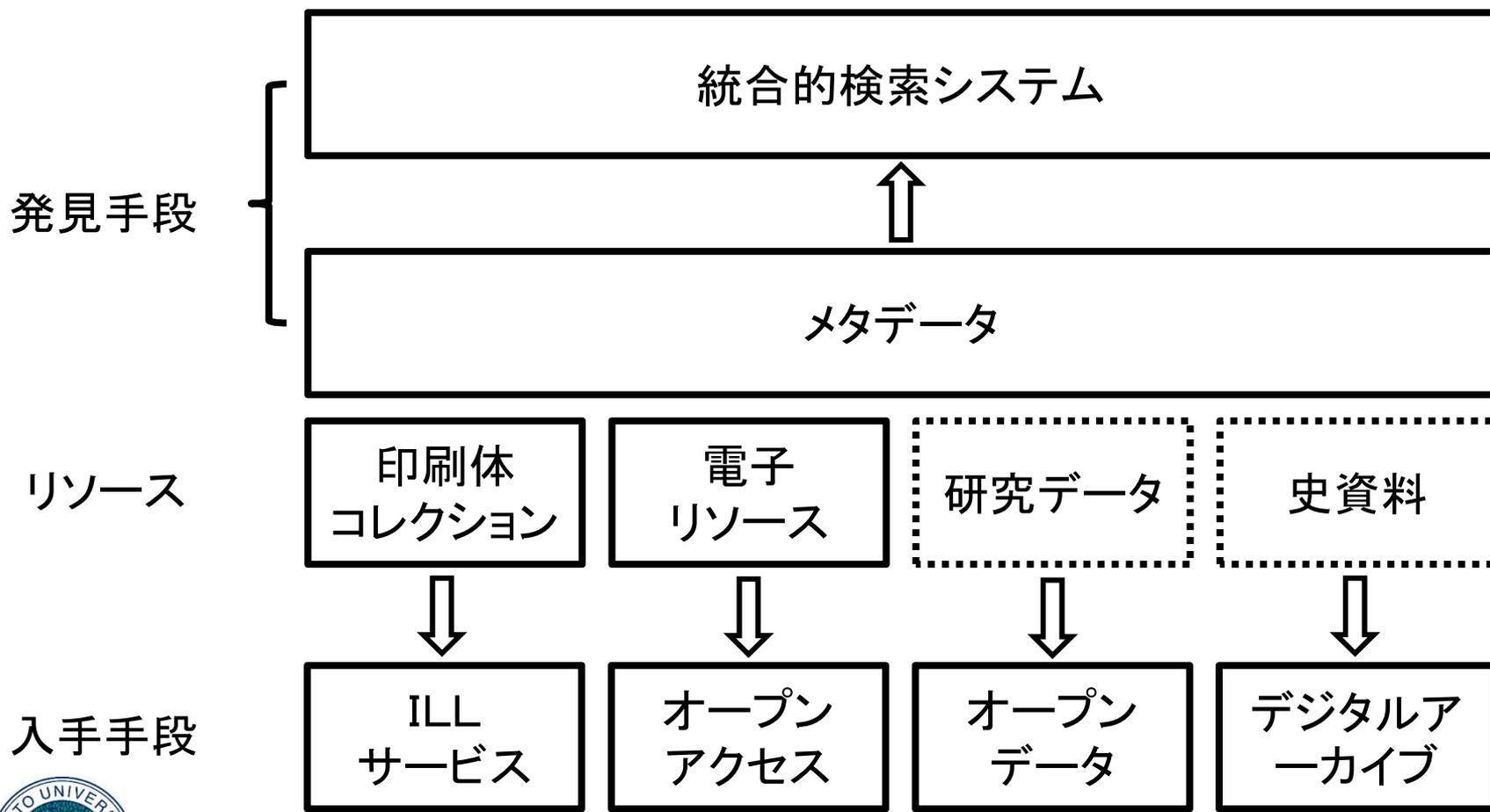
レポート『これからの学術情報システムに向けて』より



2 解決の方策

そこで、レポートの作成にあたっては、下図のような観点で学術情報流通に関わる7つのテーマを設定し、諸委員会等における検討状況や提言、国内外の事例について文献等を中心に調査を行い、現状と課題を整理した。その上で、今後5年間程度を視野に入れた当面の方向性を述べている。

3 個別テーマの位置づけ



学術情報流通の全体像と本レポートの個別テーマ



4 執筆方針

執筆にあたって、最も留意したのは、各テーマの全体像を容易に把握できるようなページ数とすることであった。

参考とした文献リストは各章末に整理したので、適宜参照が可能となっている。

5 今後の検討

本レポートを学術情報システム全体を俯瞰する「見取り図」として位置づけ、今後の方向性および具体的なアクションプランの策定を今後進める予定である。

また本レポートを公開することにより、広く関係者の方々においても議論が深化することを期待したい。

6 ビジョン推進のための事業計画(1)

「学術情報システムの今後の方向性に関する研究事業」(ビジョン推進経費による)

◆事業目的

学術情報システムの改善策立案のため、学術情報システムの全体を俯瞰するレポートを引き続き作成し、具体的な提言と改善アクションプランを策定する。

7 ビジョン推進のための事業計画(2)

◆事業内容

(平成30年度前半)

- 検討チームを組織し、コアミーティングを開催
- 検討チームによる中間報告の発表

(平成30年度後半)

- ワークショップの開催

